

海外研修報告

オーストリア海外研修報告（言語力・コミュニケーション力の育成）

I 研究の内容

教育課題研修指導者海外派遣プログラムで、11月11日～22日まで、オーストリアの言語力・コミュニケーション能力の育成に関わる実態と実践を学ぶべく研修に参加してきた。

1 研修調査団の研究課題

- (1) コミュニケーションを図ろうとする態度の育成
- (2) 言語力・コミュニケーション力を育成するための授業づくり
- (3) コミュニケーション力の育成を図る「学び合い」のあり方
- (4) 授業における言語活動の工夫

2 調査団の調査対象

学校関係；ウィーン市内中高一貫教育校 クラーゲンフルト公立小学校・中学校
クラーゲンフルト大学

関係機関；学校制度改革・開発研究所 教員研修所 ウィーン中央図書館 ウィーン
大学日本語学科 クラーゲンフルト教育委員会

II 研修のまとめ

今回は、団員19名が4班を構成し、上記の4テーマについて分担し調査・研修を行った。ここでは、私が所属した班の調査・研修のまとめをしたい。

児童・生徒の人間形成（仲間づくり）や学力の向上を願うとき、児童・生徒同士の学び合いが必要不可欠であると考え。私たちは、「児童・生徒が他者との学び合いを通して、自分の考えを深めたり高めたりするとともに、円滑な人間関係を形成していくこと」を願っている。そこで、オーストリアにおける学び合いの在り方を調査・研修することをねらいとしてテーマ「言語力・コミュニケーション力の育成を図る『学び合い』のあり方」を設定した。

我々は、コミュニケーション力を育成するために、児童生徒の「学び合い」を行うことが重要であると捉えている。そのために、場の設定や話し合いの進め方を大切にしてきた。一方で、オーストリアでは、コミュニケーション力を育成するために「言語力」や「会話力」を高めることを重要視している。多文化・多言語の中では、互いに学びあって生きていくことが生活の一部となっている。そのため、オーストリアでは、児童生徒一人一人の個性や能力を大切にした教育を行っている。

視察を終えて、児童生徒を育てる着眼点は違っても、「学び合い」を通して育てたい人間像は共通していることが分かった。社会の中でよりよく生きていく人間を育てるために、今後も「学び合い」の在り方を探っていきたい。

（三富小学校 平塚 すみり）